

## 『ユダヤ人』の罪

(ローマ2・17～29)

### 一、「ユダヤ人」の罪

17節をご覧ください。あなた自身が自らユダヤ人と称し、律法を頼みとし、神を誇り、とあります。(ここでパウロが語った「ユダヤ人」とは、だれを指しているのでしょうか。あなたか)と語っていますので、ローマの教会、すなわちローマに興されたキリストを信じる人たちの中の、ユダヤ人キリスト者なんでしょうか。それもあると思います。

ですがパウロは、もっと大きな視点で捉えていたと思います。と言いますのは、ユダヤ人が主張することばは、異邦人キリスト者に、大きな影響をもたらしていたからです。実例としては、ガラテヤに興された教会が、ユダヤ人の偽教師たちに影響され、キリストの福音から逸れて行ってしまったという出来事がありました。パウロがガラテヤの教会に手紙を出したのは、「ローマ人への手紙」の数年前です。その危険性はローマの教会においても警戒しなければならぬことでした。そこでパウロは、ユダヤ人の実態について語りました。21節、22節をご覧ください。へどうして、他人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、

自分は盗むのですか。(略)とあります。ここでパウロが語ったことは、ほんとうにそうだったのでしょうか。

私には、ルカの福音書のことばが思い起こされました。主イエスが語られた、「一人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。」(ルカ18・10)より始まる話です。パリサイ人は、次のように祈ったとあります。「神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいはこの取税人のようでないことを感謝します。私は週に一度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。」(同18・11～12)。これがイエス時代のパリサイ人を代表的する姿だったと思われまます。なのにパウロは、ユダヤ人に対して語っています。「どうして、他人を教えながら、自分自身を教えないのですか」と。実際にそうであった、という意味で語ったのでしょうか。

私はパウロが、主イエスの語られた基準で語ったのではないかと考えます。主イエスは語られました。「マタイ5・27～28『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者は、だれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。」と。主イエスは心、すなわち

内面の問題として語られました。実際に姦淫をしてはいないとしても、情欲を抱いて女性を見るだけで、心の中ですでに姦淫を犯したというのです。この基準で見られたら、品行方正なパリサイ人も引つかかってしまいます。

### 二、パウロが指摘した「罪」

「罪」って、何なのでしょう。私たち日本人は、「罪」ということばを見て、あるいは耳にして、「人の道に反すること」「法を犯すこと」を思ってしまうます。すなわち人道的な過ち、あるいは犯罪を「罪」と思ってしまう。こうしてクリスチャンになっても、聖書のことばに聞き従わないことが罪である、という受け止め方に偏りがちになるかもしれません。

「罪」とは、聖なる神から離れている状態です。そういう意味で、この世に生を享けた人は、神の子イエスを除いて、皆罪の下にあります。生まれた子供に、物心がついてきて自分で考えるようになりますと、神の御意思に適わない思いを持ち、行っています。「生まれながらの人は、神のみこころに適う思いを持っていません」と言われても、多くの方は理解しません。では、当時のユダヤ人はどう思っていたのでしょうか。異邦人、すなわちユダヤ人以外の異教徒は罪に汚れているが、自分たちは罪の下にあるとは考えていなかったように

です。これも、半分は当たっていると言えます。ローマ書1章に書かれているように、異教徒の生活が墮落していたのは事実です。ですがパウロは、「自ら」をユダヤ人と称し、律法を頼みとし、神を誇り、みこころを知り、律法から教えられて、大切なことをわきまえているあなたも、罪の下にある、と語っています。すなわち、神の御意思から離れていると語っています。

### 三、ユダヤ人も罪の下にある

パウロは何を指摘したかったのでしょうか。それは、ユダヤ人も罪の下にあり、ひいてはすべての人が罪の下にあることです。ユダヤ人が「私たちも罪の下にあります」と認めるのがいかにむずかしいかを知っていたのが、ユダヤ人であったパウロです。

そこで25節以降は、割礼の問題を取り上げます。25節をご覧ください。へもしあなたが律法を行なうなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法の違反者であるなら、あなたの割礼は無割礼になったのです。」と。ここまで語れるのは、ユダヤ人として生まれ、パリサイ人として生活し、律法の教師でもあったパウロだけです。パウロのことばを聞く側も、すなわちユダヤ人キリスト者も、「パウロ先生が語ったことばである」から、耳を傾ける気持ちになったにちがいません。